

## サプライチェーンへの取り組み

高品質かつ安心・安定したものづくりを可能にするには、調達における部材品質の確保や安定供給、さらに労働・倫理や環境に配慮したCSR調達への取り組みは欠かせません。サプライヤーとの継続した信頼関係・協力関係を大切に、双方が持続的に成長できる調達活動を目指します。

サプライチェーンマネジメント  
<https://www.rohm.co.jp/sustainability/supply-chain>

マテリアリティ	持続可能なサプライチェーンマネジメント	▶ 2023年度の実績・KPI P.27
---------	---------------------	----------------------

### 推進体制

取締役会やEHSS統括委員会の下部組織に位置付けるサプライチェーンマネジメントシステムがグループ内のサプライチェーンリスクを適切に管理・監督する役割を担います。EHSS統括委員会は、サプライチェーンマネジメントシステムのPDCAが適切に回っているかどうかを評価・確認し、取締役会へ適宜報告、相談

を行うことで、マネジメントシステムの精度の維持・向上を図っています。また取締役会は、サステナビリティ経営委員会と連携し、サステナビリティに関する方針・方向性・長期目標などについて議論し、決定した内容をEHSS統括委員会に落とし込み、実現に向けた活動が行われているかを監督しています。

### サプライヤーとの取り組み

健全かつ持続的な調達活動を目指すためには、サプライヤーとの協力体制が不可欠です。ロームでは、RBA<sup>\*</sup>行動規範を採

用しており、サプライヤーにもその遵守に努めてもらうよう、お願いしています。

\* RBA (Responsible Business Alliance) 行動規範: 電子機器関係のメーカーのほか、自動車、玩具、飛行機、IoTテクノロジー企業で構成される団体が策定した規範

#### 評価・監査プログラム

1. 活動総合評価	① 製品品質、② 納期、③ 価格、④ 供給の継続性 ※ BCP取り組み評価、外部評価機関による財務評価 ⑤ 以下に示すCSR調達セルフアセスメント結果
2. CSR調達セルフアセスメント	RBA行動規範に準じた「労働(人権を含む)」「安全衛生」「環境」「倫理」「マネジメントシステム」とロームの独自項目である「情報セキュリティ」「調達BCP」「物流」「品質コンプライアンス」に関して自己評価。サステナビリティハイリスクサプライヤーと認定されたサプライヤーについては、それぞれ是正処置・改善支援を実施。
3. CSR調達監査	サプライヤーとの対話を通じて、ロームの方針やCSR調達に関する考え方、環境や安全・人権への配慮の重要性、及び活動内容の理解・賛同を目的に、セルフアセスメント内容の確認、工場確認の上、必要に応じて改善を要請。
4. 調達BCP	「安定供給」を行う上でのリスクとその影響度を評価し、特定した重要なリスクに対して四半期ごとに対応状況を確認。

### 1. 活動総合評価

ロームでは、サプライヤーの製品品質・納期・価格・BCPの取り組み状況はもちろん、次項のCSR調達セルフアセスメントの結果も含め、サプライヤーの活動を総合的に評価しています。活動総合評価は以下のタイミングで実施されます。

- サプライヤー選定時、契約締結時…CSR調達セルフアセスメント評価において、ロームが決めた最低点を獲得いただけない場合は、獲得いただくまで契約締結ができません。
- 定期(毎年1回)…1年間の活動を総合的に評価し、サプライヤーにフィードバックします。一定の期間内にロームが決めた最低点を獲得いただけない場合は契約から除外されます。

### 2. CSR調達セルフアセスメント

サプライヤーに対し、CSR活動の達成状況を確認するため、毎年RBA行動規範に示す「労働(人権を含む)」「安全衛生」「環境」「倫理」「マネジメントシステム」とローム独自項目である「情報セキュリティ」「調達BCP」「物流」「品質コンプライアンス」に関して自己評価を依頼しています。セルフアセスメントの総合点数に基づいてランク分けを行い、サプライヤーのESGリスクの特定などを行っています。重要なサプライヤーはBランク以下、それ以外のサプライヤーはCランク以下をサステナビリティハイリスクサプライヤーと認識しており、その認定をされたサプ

### 3. CSR調達監査

監査はCSR調達担当者による第三者監査形式で、オンサイトまたはオンラインでのドキュメント確認や工場・寮の確認を行います。監査対象はロームの重要サプライヤーとしており、3年間で最低1回行い、3年ごとに対象を見直しています。監査を通じて是正が必要と認められる場合にはサプライヤーと協議の上、改善計画書を作成・提出してもらい是正処置の完了までのフォローを行っています。この監査は実態把握だけではなく、サプライヤーへロームの方針やCSR調達に関する考え方を伝えるとともに、サプライヤーとのCSR活動について相互に理解

### 4. 調達BCP

BCPの一環として、有事の際でも事業を中断させないよう、平時からサプライヤーとの連携を深めて、速やかに復旧が可能となる体制を整備し、代替材料を準備する取り組みを進めています。

- ① 調達部門におけるリスクの定義: リスク管理・BCM委員会を設立し、各部門のリスク管理を行っています。調達部門では、これまでの「品質」「納期」「価格」「コンプライアンス」の4つのリスクに加え、「安定供給」を行う上でのリスクとその影響度を評価し、特定した重要なリスクに対して四半期ごとに対応状況を確認しています。
- ② サプライヤーの選定: 有事の際にはサプライヤーを含めたサプライチェーン全体で情報を共有し、供給継続に向けた対応が可能なサプライヤーを選定しています。取引を開始する際には、ロームの基本姿勢をご理解の上、同意書を提出いただいています。
- ③ BCPに関する取り組み: 有事の際にいち早くサプライヤーの被災・安否状況や供給状況の確認が取れるよう、調達部

ライヤーに対しては是正依頼・改善支援を行います。2025年度目標は、年間購入金額の90%を占めるサプライヤーすべてで評価B以上を獲得するとしていますが、2023年度の実績は80.6%でした。

#### セルフアセスメント達成目標

2025年度目標	2023年度目標	2023年度実績	2024年度目標
90%以上 (金額ベース)	80.0%	80.6%	85.0%

を深めるトレーニングの機会と捉えています。2023年度は、2022年度より10社多い23社に監査を実施しました。

重要なサプライヤー  
<https://www.rohm.co.jp/sustainability/supply-chain/communication#anc03>

#### CSR調達監査実績

年度	2021	2022	2023
訪問社数	9	13	23

材の製造会社・製造場所の情報を調査し、データベース化しています。

#### 一次サプライヤー生産拠点調査

有事の際、影響範囲を瞬時に特定できるよう、一次サプライヤーから調達しているすべての材料・装置・部品約70,000アイテムの生産拠点調査を2025年度までに100%実施することを目標に掲げ、現在調査を進めています。また、取り組みの実績を「一次サプライヤー生産拠点調査比率」として数値管理し、毎年モニタリングを行っています。

#### 有事対応における事前合意

重要な材料を取り扱うサプライヤーとは、有事発生の際の対応方法について事前に合意する取り組みを進めています。2025年度までに事前合意100%達成を目標に掲げ、取り組みの実績を「有事対応事前合意率」として数値管理し、毎年モニタリングを行っています。

## サプライチェーンへの取り組み

### 責任ある鉱物調達

ROOMは、紛争だけでなく、OECD Annex IIリスクを含む人権侵害や環境破壊などのリスクや不正に関わるスズ、タンタル、タングステン、金、コバルト、マイカなどの鉱物問題に対し、サプライチェーン全体で責任ある鉱物調達に取り組んでいます。

顧客に安心してROOM商品を使用していただけるよう、サプライチェーンマネジメント本部が中心となって「OECDデュー・デリジェンス・ガイダンス」に沿った査定プロセスを実施しています。調査の結果、2023年度のCFS\*認証率は前年度から1ポイント減の97%となりました。残り3%の未認証製錬所については、CFSへの切り替えを働きかけていきます。今後、ROOM商品において武装勢力の資金源となっている紛争鉱物の使用が判明した場合には、可能な限り迅速に是正措置を講じます。

### グリーン調達

ROOMでは、地球環境に貢献・配慮した取り組みの推進を経営の重要課題とし、グリーン調達を推進するため、調達する部品・材料が含有する化学物質調査の精度を向上させていきます。ROOM独自の基準に照らし合わせて部材の含有物を審査し、基準を満たしたもののみを「調達システム」に登録することで、使用禁止物質を調達しない仕組みを構築しています。サプライヤーには、グリーン調達ガイドライン\*1及び製品化学物質管理

### ■ アセスメント

サプライヤーの環境管理体制をROOM基準の合格レベルに引き上げることを目標とし、自己評価を実施していただいています。評価結果を基にフィードバックと改善活動を継続的に実施することで、2025年度のサプライヤーの環境管理体制自己評価合格率100%を目指しています。

2023年度からはROOM単体だけでなく、グループ全体でアセスメントを開始し、一部ROOM基準を満たしていないサプライヤー及び未回答のサプライヤーについては、状況確認と課題把握に努め、改善に向けた取り組みを進めています。

### サプライヤーと協業したカーボンニュートラルの取り組み

昨今、サプライチェーン全体で脱炭素社会実現に向けた実効性ある取り組みを求められているなか、ROOMでは2023年より重要主材料サプライヤーに対し、先行して「カーボンニュートラル説明会」を実施しました。サプライヤーに対し、協力事項の説明やROOM向け供給材料のGHG排出量の提供を求め、協業による削減活動を開始しました。

#### 2023年度の調査結果

調査対象のサプライヤー:113社  
調査回答入手のサプライヤー:113社、入手率100%  
特定した製錬所:全鉱物で193社(そのうち、RMAP 認証製錬所187社)

	金	タンタル	スズ	タングステン	全体
全製錬所数	89	33	42	29	193
CFS*認証製錬所数	84	33	41	29	187
CFS*認証率	94%	100%	98%	100%	97%

\*CFS: Conflict Free Smelter (紛争鉱物を使用していない製錬業者)。ROOMでは、Responsible Minerals Initiative (RMI) の Responsible Minerals Assurance Program (RMAP) によって認証された製錬所をCFSと定義しています。

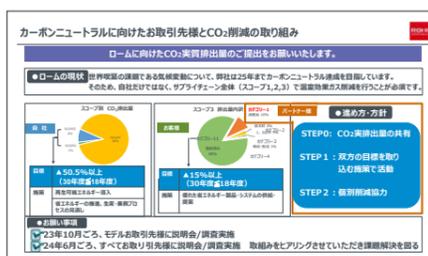
基準書\*2を発行し、部材の指定基準への適合状況の確認を依頼しています。

\*1 グリーン調達ガイドライン  
[https://www.rohm.co.jp/documents/11401/12006500/ROHM\\_Green+Procurement+Guidelines\\_006jp.pdf/6c2a1d87-320b-e05a-9515-21358b0e41fb?t=1694482101733](https://www.rohm.co.jp/documents/11401/12006500/ROHM_Green+Procurement+Guidelines_006jp.pdf/6c2a1d87-320b-e05a-9515-21358b0e41fb?t=1694482101733)

\*2 製品化学物質管理基準書  
[https://www.rohm.co.jp/documents/11401/12006500/ROHM\\_Control+Standard-of+Chemical-Substances-in-Products\\_003jp.pdf/2888266b-2b33-7528-64f7-fdee3b40ddd?t=1699318563427](https://www.rohm.co.jp/documents/11401/12006500/ROHM_Control+Standard-of+Chemical-Substances-in-Products_003jp.pdf/2888266b-2b33-7528-64f7-fdee3b40ddd?t=1699318563427)

#### 2023年度アセスメント結果

評価区分	ROOM基準への適合率	2023年度		対応内容
		社数	比率	
A	70%以上	1,115	87.7%	—
B・C	70%未満	16	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーの環境管理体制自己評価結果を確認し、点数の低い項目からサプライヤーの課題や状況を把握</li> <li>サプライヤーに改善要望書を送付し改善を依頼</li> </ul>
是正依頼中		9	0.7%	サプライヤーの環境管理体制自己評価結果を40%以上に向上するよう改善を支援
未回答		131	10.3%	—
合計		1,271	100%	—



サプライヤー向け説明会資料(抜粋)

### 公正な取引の徹底

事業活動を行う上での倫理上のルールとなる「ROOMグループ行動指針」において、公正・対等な取引について言及しています。サプライヤーと公正かつ倫理的な取引を行うため、横領や贈収賄などの汚職行為を未然に防ぐ仕組みを構築し、従業員への教育・周知を徹底しています。

### パートナーシップ構築宣言

2021年1月より、「パートナーシップ構築宣言」を掲げています。サプライチェーンや価値創造を図る事業者の皆さまとの連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築することを目的として、経団連会長、日商會頭、連合会長及び関係大臣をメンバーとする「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」において創設された仕組みです。

### 適正取引に関する教育

公正な取引を行うには、ROOMの従業員一人ひとりが「ROOMの顔」であることを忘れず、サプライヤーと健全な関係を構築・維持していかねばなりません。そこで適正な価格に基づく取引を推進するためにも、従業員の「下請代金支払遅延等防止法」

### 公正取引プログラムの推進

調達部員と特定のサプライヤーとの癒着が発生しないよう、60カ月以内で担当業務ローテーションを行い、公平・公正な調達活動を維持する仕組みを確立しています。併せて公正取引プログラムとして年1回、「公正・対等な調達活動」[サプライヤーの公正な選定]「CSR調達」などESGを踏まえた教育を実施しています。

### 未来への挑戦

#### サプライチェーンマネジメントの視点からグローバルメジャー実現に貢献

私は、輸出入業務のリーダーとして、輸出入における法令管理、適切な物流業者の選定、物流改革、物流BCPのコントロールを担当しています。サプライチェーンにおける物流体制の構築・管理は、商品の品質保持、コスト削減、そして市場の変動に迅速に対応するために重要です。ROOMでは、物流プロセスの全体構築を自社内で完結させることで、顧客満足度の向上と長期的な競争力強化に貢献しています。

物流効率化事例としては、関連部門と協力して輸送改革を行いました。現地制度により、ROOMの海外工場から同国の販売会社へ直接納品することができないルートが存在し、商品を他国経由で再輸入するという回り道をしていました。この問題を解決するため、現地の販売会社や工場、営業部門、製造部門、システム部門と協業し、運用を徹底して見直し、法令・商流への対応により輸送リードタイムの短縮、物流コスト削減を実現できました。

今後も、現在の業務枠にとどまらず、サプライチェーンマネジメントの視点から、多角的に物流改革を提案・実行し、供給体制を強化することでグローバルメジャー実現に貢献していきます。



SCM本部 SCM企画部  
物流企画課 グローバルフォロー  
ディングG グループリーダー  
川越 恵美

ROOMグループ行動指針  
<https://www.rohm.co.jp/company/about/rohm-group-business-conduct-guidelines>



パートナーシップ構築宣言  
[https://www.biz-partnership.jp/declaration/937-05-20-kyoto.pdf?\\_fsi=b4BDS Eip](https://www.biz-partnership.jp/declaration/937-05-20-kyoto.pdf?_fsi=b4BDS Eip)

#### 公正取引プログラム受講者数

年度	2021	2022	2023
調達部員	55	57	58